

Ⅲ. 調査結果の要約

1 区の施策および評価について

(1) 住みごころ

(本文 57ページ)

練馬区の住みごころを聞いたところ、「住みよい」(46.5%)が5割近く、「まあ住みよい」(47.1%)が5割近くとなっており、この2つを合わせた『肯定的評価』(93.6%)が9割を超えている。一方、「あまり住みよくない」(3.7%)、「住みにくい」(0.8%)を合わせた『否定的評価』(4.5%)はわずかとなっている。

(2) 練馬区が住みよいと感じるところ

(本文 62ページ)

練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(50.0%)が5割と最も多く、次いで「治安が比較的よい」(46.5%)、「買い物がしやすい」(45.7%)、「交通の便がよい」(42.9%)、「防災の面で比較的安心である」(17.1%)などの順となっている。

(3) 練馬区が住みにくいと感じるところ

(本文 66ページ)

練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(23.4%)が2割を超えて最も多く、次いで「働く場所があまりない」(14.0%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(ともに12.6%)、「買い物が不便である」(12.5%)などの順となっている。

(4) 定住意向

(本文 70ページ)

これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(40.1%)と「当分は住み続けたい」(39.8%)を合わせた『定住意向』(79.9%)が8割となっている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.4%)と「区外へ移りたい」(1.2%)を合わせた『転出意向』(4.6%)はわずかとなっている。

(5) 練馬区への愛着

(本文 74ページ)

練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(36.6%)と「どちらかという愛着を感じる」(42.8%)を合わせた、愛着を『感じる』(79.4%)が約8割となっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(4.5%)と「愛着を感じない」(2.8%)を合わせた、愛着を『感じない』(7.3%)は1割近くとなっている。

(6) 練馬区に対する誇り

(本文 78ページ)

練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(14.2%)と「どちらかという誇りを感じる」(36.5%)を合わせた、誇りを『感じる』(50.7%)が約5割となっている。一方、「どちらかという誇りを感じない」(9.8%)と「誇りを感じない」(7.4%)を合わせた、誇りを『感じない』(17.3%)は2割近くとなっている。

(7) 施策の満足度と必要性

(本文 83・85ページ)

満足度について『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(79.6%)	①交通安全対策	(52.1%)
②みどりの保全と創出	(77.0%)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(45.2%)
③循環型社会づくり	(72.3%)	③駅周辺のまちづくり	(42.1%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(71.4%)	④鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	(39.3%)
⑤窓口サービス等の利便性の向上	(69.4%)	⑤地域環境の保全	(37.8%)

必要性について『必要性が高い評価』と『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
①医療環境の充実	(85.7%)	①観光の推進	(42.9%)
②交通安全対策	(84.8%)	②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(38.2%)
③災害に強い安全なまちづくり	(84.4%)	③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(36.0%)
④健康づくりの推進	(82.1%)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(34.5%)
⑤高齢者福祉	(81.8%)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(26.9%)

(8) 施策への要望

(本文 94ページ)

特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(29.9%)が3割と最も多く、次いで「高齢者福祉」(21.1%)、「交通安全対策」(19.8%)、「子育て支援」(19.2%)、「学校教育」(16.6%)などの順となっている。

(9) 区政情報の入手先

(本文 104ページ)

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(59.3%)が約6割と最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(40.0%)、「掲示板」(18.5%)、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」(14.0%)などの順となっている。

(10) 『ねりま区報』の閲読度

(本文 106ページ)

『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(10.0%)と「必要な記事は読んでいる」(43.3%)を合わせた『読んでいる』(53.3%)が5割を超えている。一方、「あまり読んでいない」(18.7%)と「まったく読んでいない」(26.9%)を合わせた『読んでいない』(45.6%)は4割半ばとなっている。

(10-1) 『ねりま区報』の満足度

(本文 109ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(590人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(9.5%)と「満足している」(74.9%)を合わせた『満足評価』(84.4%)が8割半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(12.7%)と「満足していない」(0.7%)を合わせた『不満評価』(13.4%)は1割を超えている。

(10-2) 『ねりま区報』の入手手段

(本文 112ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(590人)に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」(47.1%)が5割近くと最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」(27.6%)、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」(26.4%)の順となっている。

(10-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

(本文 114ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(590人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」(73.6%)が7割を超えて最も多く、次いで「1面の記事」(45.4%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(31.5%)、「2面や最終面などの特集面」(22.9%)などの順となっている。

(10-4) 『ねりま区報』を読んでいる理由

(本文 116ページ)

『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(505人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(47.1%)が5割近くと最も多く、次いで「入手方法がわからない」(33.7%)、「必要な記事がない」(17.4%)などの順となっている。

(11) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容(企画)

(本文 118ページ)

『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容(企画)を聞いたところ、「区立施設の紹介」(38.8%)が4割近くと最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」(33.5%)、「区内の名所・公園の紹介」(25.3%)、「区民や地域で活動する団体の紹介」(22.1%)などの順となっている。

(12) 『ねりま区報』の配布方法の意向

(本文 121ページ)

『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」(73.4%)が7割を超えて最も多く、次いで「全世帯に配布すべき」(14.4%)、「送付サービスをもっと拡大すべき」(5.4%)、「配布施設をもっと増やすべき」(3.3%)の順となっている。

(13) 『ねりま区報』の発行回数の意向

(本文 124ページ)

『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい(月3回)」(52.0%)が5割を超えて最も多く、次いで「月1回にすべき」(25.1%)、「月2回にすべき」(19.1%)、「毎週発行など回数を増やすべき」(0.1%)の順となっている。

(14) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度 (本文 127ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(24.5%)が2割半ばとなっている。一方、「知らない」(72.6%)は7割を超えている。

(14-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度 (本文 129ページ)

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(271人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(3.0%)と「興味のある内容のときだけ見ている」(48.3%)を合わせた『見ている』(51.3%)が5割を超えている。

(15) 『区ホームページ』の閲覧状況 (本文 131ページ)

『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(2.3%)と「必要に応じて見ている」(45.4%)を合わせた、『見ている』(47.7%)が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」(42.8%)は4割を超えている。また、「見られる環境がない」(4.7%)はわずかとなっている。

(15-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度 (本文 133ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(528人)に閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(4.5%)と「満足している」(57.6%)を合わせた『満足評価』(62.1%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(31.8%)と「満足していない」(3.6%)を合わせた『不満評価』(35.4%)は3割半ばとなっている。

(16) 知っている練馬区公式SNSアカウント (本文 135ページ)

知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「LINE」(14.6%)が1割半ばと最も多く、次いで「X(旧Twitter)」(14.5%)、「YouTube」(7.0%)、「Instagram」(5.6%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(62.0%)は6割を超えている。

(17) SNS等で区から受け取りたい情報 (本文 137ページ)

SNS等で区から受け取りたい情報について聞いたところ、「健康・医療」(44.9%)が4割半ばと最も多く、次いで「防災・防犯」(37.9%)、「イベント・講座」(35.4%)、「ごみ・リサイクル・環境」(23.8%)などの順となっている。

(18) 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと (本文 139ページ)

今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「検索しやすいホームページの構築」(50.0%)が5割と最も多く、次いで「ねりま区報による情報発信の充実」(38.3%)、「SNSを活用した即時性のある情報発信」(34.1%)、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」(13.6%)などの順となっている。

(19) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか (本文 141ページ)

知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分に伝わっている」(3.1%)と「ある程度伝わっている」(50.2%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』(53.3%)が5割を超えている。一方、「あまり伝わっていない」(33.6%)と「まったく伝わっていない」(8.6%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』(42.2%)は4割を超えている。

(19-1) 区政情報が伝わっていないと思う主な理由

(本文 143ページ)

知りたい区政情報が「あまり伝わっていない」または「まったく伝わっていない」と答えた方(467人)に、伝わっていないと思う主な理由について聞いたところ、「情報の入手方法がよく分からない」(49.0%)が約5割と最も多く、次いで「調べても知りたい情報にたどり着かない」(26.6%)、「知りたい情報はあるが確認する時間がない」(23.6%)、「情報が多く、他の情報に埋もれて見逃してしまう」(16.3%)などの順となっている。

2 防災について

(1) 家庭で備蓄しているもの

(本文 145ページ)

家庭で備蓄しているものについて聞いたところ、「飲料水」(81.9%)が8割を超えて最も多く、次いで「懐中電灯などの光源」(70.5%)、「食料」(63.2%)、「携帯トイレ」(53.4%)、「ラジオ」(46.3%)、「常備薬」(40.2%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(7.9%)は1割近くとなっている。

(1-1) 備蓄をしていない理由

(本文 148ページ)

家庭での備蓄について「特にしていない」と答えた方(87人)に、備蓄をしていない理由について聞いたところ、「何を備蓄したらよいか分からない(自分ではできない)から」(41.4%)が4割を超えて最も多く、次いで「保管するのに場所を取るから」(33.3%)、「購入するのが面倒だから」(27.6%)などの順となっている。

(2) 家庭での備蓄量

(本文 149ページ)

家庭での備蓄量を聞いたところ、(1)飲料水・食料は、「3～6日分」(37.6%)が4割近く、「1週間分以上」(10.6%)が約1割となっており、この2つを合わせた『3日分以上』(48.1%)が5割近くとなっている。一方、「特にしていない」(13.6%)は1割を超えている。

(2)携帯トイレは、「3～6日分」(18.3%)と「1週間分以上」(5.7%)を合わせた『3日分以上』(24.0%)が2割半ばとなっている。一方、「特にしていない」(45.2%)は4割半ばとなっている。

(3) 実施している安全対策

(本文 152ページ)

既に実施している安全対策について聞いたところ、「家具類が転倒しないように固定している」(37.1%)が4割近くと最も多く、次いで「暗い中でも避難できるよう、懐中電灯などを枕元に置いている」(32.3%)、「背の高い家具を置かないようにしている」(28.9%)、「自宅を耐震化している」(24.7%)などの順となっている。一方、「備えようとは思っているが、まだできていない」(18.0%)は2割近くとなっている。

(3-1) 安全対策をしていない理由

(本文 154ページ)

安全対策について「備えようとは思っているが、まだできていない」または「特にするつもりがない」と答えた方(231人)に、安全対策をしていない理由について聞いたところ、「購入したり設置したりするのが面倒だから」(45.9%)が4割半ばと最も多く、次いで「お金がかかるから」(32.0%)、「方法が分からない(自分ではできない)から」(20.3%)などの順となっている。

(4) 自宅で行っている火災対策

(本文 156ページ)

自宅で行っている火災対策について聞いたところ、「火災警報器の設置・更新」(56.3%)が5割半ばと最も多く、次いで「消火器の設置」(38.7%)、「揺れを感知すると自動的に火が消えるガスコンロや電気調理器(IH)に交換」(33.7%)、「古い配線の交換、コンセントの清掃(ホコリ除去など)」(19.0%)などの順となっている。一方、「特にない」(16.7%)は2割近くとなっている。

(5) 住まいの建物の耐震性の認知状況

(本文 158ページ)

住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているか聞いたところ、「耐震性があることを知っている」(58.5%)が6割近くとなっており、「耐震性がないことを知っている」(11.1%)は1割を超えている。一方、「知らない」(25.5%)は2割半ばとなっている。

(5-1) 耐震診断や耐震改修工事の意向

(本文 160ページ)

住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているかについて「耐震性がないことを知っている」または「知らない」と答えた方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方(223人)に、耐震診断や耐震改修工事を実施することについてどのように思うか聞いたところ、「耐震診断や耐震改修工事をやりたい」(26.5%)が3割近く、「耐震診断や耐震改修工事をやりたいが不安がある」(35.4%)が3割半ばとなっており、この2つを合わせた『実施したい』(61.9%)が6割を超えている。一方、「耐震診断や耐震改修工事をやりたくないと思わない」(10.3%)は1割となっている。(図2-5-3)

(5-2) 耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由

(本文 162ページ)

住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているかについて「耐震性がないことを知っている」または「知らない」と答えた方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方(223人)に、耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由を聞いたところ、「お金がかかる」(65.9%)が6割半ばと最も多く、次いで「どこに依頼すればいいのか分からない」(31.8%)、「どのような工事内容になるのか分からない」(28.7%)、「工事中の生活が不安」(22.9%)などの順となっている。

(6) 中高層住宅特有の被害で知っているもの

(本文 164ページ)

中高層住宅(3階建て以上のマンション・共同住宅)にお住まいの方(437人)に、中高層住宅特有の被害で知っているものについて聞いたところ、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」(81.5%)が8割を超えて最も多く、次いで「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」(77.6%)、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」(76.0%)などの順となっている。

(7) 住まいの中高層住宅で行っている対策

(本文 166ページ)

中高層住宅(3階建て以上のマンション・共同住宅)にお住まいの方(437人)に、住まいの中高層住宅で行っている対策について聞いたところ、「定期的に訓練を行っている」(21.1%)が2割を超えて最も多く、次いで「災害対応マニュアルを作成している」(17.2%)、「管理組合等で、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」(14.2%)などの順となっている。一方、「知らない または 行っていない」(56.5%)は6割近くとなっている。

（８）参加したい防災訓練

（本文 168ページ）

参加したい防災訓練について聞いたところ、「AEDの操作」（39.9%）が4割と最も多く、次いで「トイレ対策（携帯トイレの備蓄や使い方など）」（39.0%）、「災害時の食事の作り方」（35.3%）、「消火器やスタンドパイプの操作」（30.8%）などの順となっている。

（９）防災訓練に参加しやすくなる条件

（本文 171ページ）

どのような条件であれば、防災訓練に参加しやすくなるかについて聞いたところ、「家の近くで実施している（近隣の小・中学校や公園など）」（56.0%）が5割半ばと最も多く、次いで「申込不要で立ち寄って参加できる」（49.6%）、「開催情報（日時・会場）がホームページなどで確認できる」（28.2%）、「土曜日や日曜日に定期的実施している」（25.9%）などの順となっている。

3 都市農業・農地について

（１）都市農業・農地に対する考え

（本文 173ページ）

都市農業・農地に対する考えについて聞いたところ、「都市生活を豊かにするものである」（82.7%）が8割を超えている。一方、「都市生活には必要ない」（3.7%）はわずかとなっている。

（２）農地の保全に対する考え

（本文 175ページ）

農地の保全に対する考えについて聞いたところ、「積極的に保全すべきである」（56.5%）が6割近く、「ある程度残した方がよい」（29.5%）が3割となっており、この2つを合わせた『残した方がよい』（86.1%）が8割半ばとなっている。一方、「減少することはやむを得ない」（6.5%）はわずかとなっている。

（３）都市農業で体験したいもの

（本文 177ページ）

都市農業で体験したいものについて聞いたところ、「直売所で農産物を購入してみたい」（69.4%）が約7割と最も多く、次いで「地元農産物を使う飲食店で食事してみたい」（35.4%）、「畑や果樹園などで収穫体験してみたい」（35.2%）、「マルシェ等の「農」のイベントに参加してみたい」（23.6%）などの順となっている。

（４）都市農業で体験したことがあるもの

（本文 179ページ）

都市農業で体験したことがあるものについて聞いたところ、「直売所で農産物を購入したことがある」（66.8%）が7割近くと最も多く、次いで「畑や果樹園などで収穫体験をしたことがある」（24.5%）、「地元農産物を使う飲食店で食事をしたことがある」（19.3%）、「マルシェ等の「農」のイベントに参加したことがある」（12.6%）などの順となっている。